山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館の職員の発案で誕生した「ジオフィールド」が、節目の５０号を迎えることとなりました。これまでご愛読いただきました皆様に感謝申し上げます。

さて今回は、山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館で仕事を開始して３年目となる私（館長）が、記録として残すためにも、この３年間の取組みを振り返りながら感想などを書き留めておきたいと思います。

ただし、３年のうち２年は、新型コロナウイルス感染症の対応が大きなウエイトを占めています。現在でも、オミクロン株が流行し、鳥取県内でも感染者数が高止まりとなっていますが、コロナ禍で見えてきたことについても報告したいと思います。

コロナ禍で注目される山陰海岸ジオパークトレイル

≪鳥取市ＪＲ青谷（あおや）駅～京丹後市経ヶ岬（きょうがみさき）　全長 230km≫

写真1：鴨ヶ磯でのトレイル風景

写真2：鳥取砂丘でのトレイル風景

山陰海岸ジオパークトレイルは、平成 27 年５月、鳥取県が牽引役となり、岩美町観光協会を試行運用的な事務局として山陰海岸ジオパークトレイル協議会を設立したことに始まります（詳細経緯は Vol.38 参照）。当時は、JR 鳥取駅から JR東浜（ひがしはま）駅までのコースのみでしたが、出来れば新温泉町まで延伸したいという想いがあったようです。

平成 28 年度からは、旅行業の登録がある鳥取市観光コンベンション協会に事務局を移管するとともに、京都府京丹後市までのロングトレイルルートの検討を掲げ、新温泉町・香美町もトレイル協議会へ加入いただきました。また鳥取市からは、JR 鳥取駅より西側への延伸要望があり、これも併せて検討することとなりました。平成 29 年１２月鳥取県議会定例会の議論で、平井知事が「３府県にまたがるルートを目指したい。」と表明したことから、これ以降、本格的に全線開通を目指した動きが始まりました。ルートを専門家の方々に踏査いただき、意見を踏まえながらルート案が設定されました。最終的に、私が当館にやってきた１年目、令和２年２月総会において全ルート案が承認され全線開通を達成しました。

現在は、トレイル協議会を解散、その機能を山陰海岸ジオパーク推進協議会内に移管し、入門ウォークやポイント獲得ウォークなど各種イベントが仕組まれたほか、旅行会社でのツアー造成、京丹後市での日帰りバスツアーなど、山陰海岸ジオパークの大きな魅力となりました。コロナ禍でも自然を満喫できるこの素材、まだまだ活用・発展の余地がありそうです。

ちなみに私は、JR青谷（あおや）駅から JR佐津（さつ）駅までの１８コースのうちの１６コース、約１１２km 歩きましたが、一括りに山陰海岸と言っても海岸だけではなく、鳥取県側では愛犬とともに城下町や温泉街を歩き、兵庫県側では多くの漁村風景や危険な断崖絶壁などを楽しむことが出来ました。また兵庫県香美町では、地元の方との会話も楽しめて、この３年間でトレイルは、私に時間と空間の楽しみ方を教えてくれました。（裏へ）

〒681-0001 鳥取県岩美町牧谷 1794-4
TEL: 0857-73-1445
E-mail: sanin-geopark@pref.tottori.lg.jp

コロナ禍で何が変わった？　何が分かった？

≪ジオパークエリア外からの来館≫

当館では、約１ヶ月の休館も経験しましたし、講座やイベントの中止または延期、参加人数の制限や会場変更など、ここ２年はコロナ禍での対応に右往左往しましたが、参加者の安全安心につながることは積極的に取り組みました。また近年、右肩上がりで来館者数を伸ばしていましたが、これもコロナ前の６割に低下。館内の賑わいはなくなりましたが、「数ではなく満足度を！」が職員の合言葉となりました。

でも、暗いことばかりではありません。例えば、これまで我々がジオパークの魅力を伝えきれていなかった倉吉市を中心とする鳥取県中部、あるいは米子市を中心とする鳥取県西部の小中学校からの来館が大きく伸びました。もちろん、教育旅行等が県内限定とされたことも影響していますが、鳥取県中西部から東部へ旅行する場合は鳥取砂丘まで、来ても浦富海岸までというのが従来だったような気がします。我々は、コロナ禍をチャンスと捉え、中西部の市町村単位で開催される校長会に出向き、そこで当館のＰＲをさせていただきました。学習施設であるということが大きな売りとなり、そのことが結果につながったように思います。アフターコロナを見据え、この現象をいかに継続させるかがカギとなります。

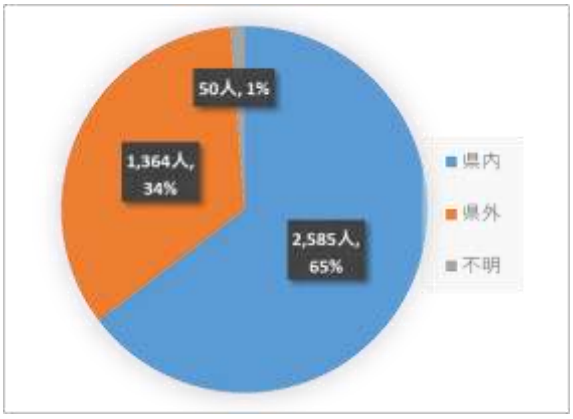

図1：来館者の県内･県外別割合

≪当館の来館者はどこから来ているのか？≫

コロナ対応では、検温、手指消毒、マスクの着用など基本的な感染防止対策はもちろん、もしもの場合に備えて連絡先をいただくことにしました。情報をいただくための来館者票には、居住都道府県名、来館回数も記載する様式にしてご協力をいただきました。試しに令和２年 10 月から令和３年 1 月までの来館者票 1,21３件、3,999 人分を集計した結果、これまで感覚的に把握していた来館者の姿が数字として見えてきました。

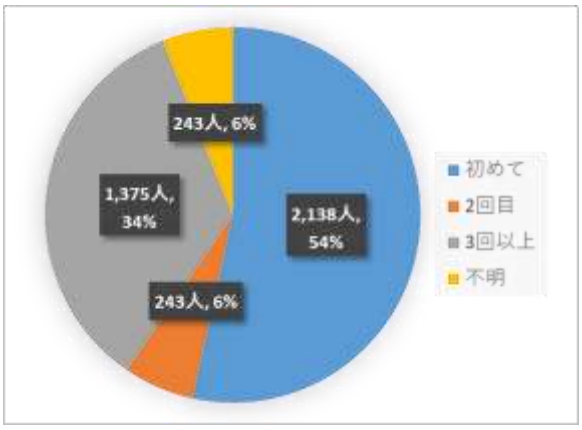

図2：来館回数（リピーター率）

来館者のうち県内在住者は全体の６５%、県外在住者は３４%（図１のとおり）。来館者の５４%が初めての来館で、リピーター率は４０%（図２のとおり）ですが、県内在住者に限って言えばリピーター率は５４%でした。集計対象期間中、青森県や山形県、沖縄県など数県の来館記録がありませんでしたが、概ね全国各地から来館いただいたことが分かります。また、近隣の兵庫県や大阪府、京都府、岡山県からの来館が多く、意外にも島根県からは少ないことも分かりました（図３のとおり）。

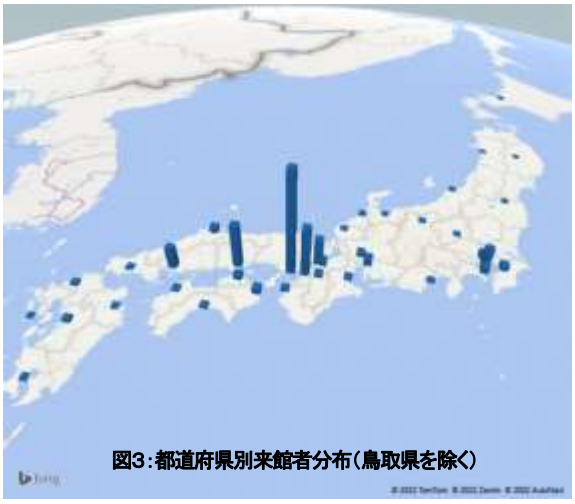

図3：都道府県別来館者分布（鳥取県を除く）

我々はコロナウイルス感染症を経験して、ジオパーク活動や館運営を見つめなおす機会を得ました。来館者が求める安全安心は、これからも高まるものと考えますし、満足度を上げるためにはデータ分析して行動に繋げることが必要です。

とは言え、数年後にこのジオフィールドを読み返して笑っていられることが一番ですが・・・。（館長　近藤）

〒681-0001 鳥取県岩美町牧谷 1794-4
TEL: 0857-73-1445
E-mail: sanin-geopark@pref.tottori.lg.jp